



立教大学大学院
21世紀社会デザイン研究科
Graduate School of Social Design Studies



社会をダイナミックに創造し、課題と渡り合う力、 危機をチャンスに変え、 生き抜いていく力を持つ人「財」を養成。 知識と戦略、そして実践力が育ちます。

なぜ Social Design か？

本研究科は、21世紀の社会が直面する諸問題に現実的に取り組み、新しい市民的知の結集と協働のネットワークによって、“いかに対処すべきか”の具体的な社会と組織の運営方法論を系統的な理論と実践として探究する、新しいタイプの大学院です。

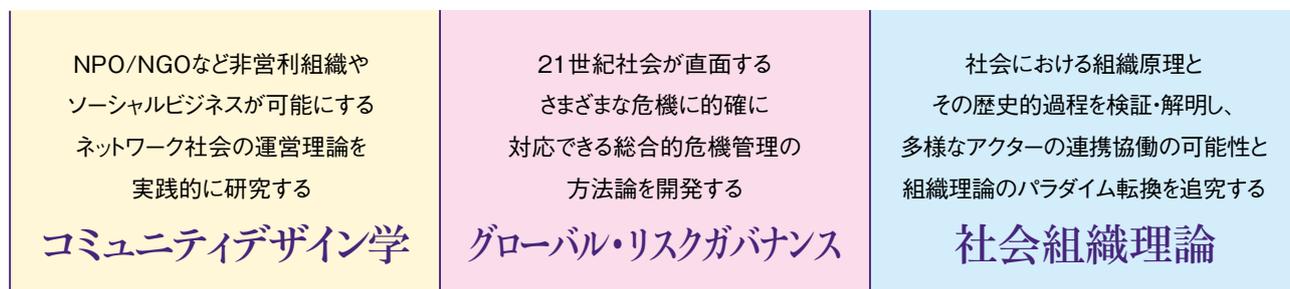
異なる価値観を持つ人々が共生していくための知恵や仕掛けや仕組みとしての社会と、そこでの人々の参加・参画の仕方を、これまでの常識にとらわれず、根底的という意味でラディカルに革新（イノベーション）していく思考と実践のありようを、私たちは「社会デザイン」と呼んできました。

本研究科の設立から18年、ソーシャルメディアによる市民・各アクター間の情報共有や協働が加速しています。また、ビジネスの手法を通じて社会的課題の解決をはかるソーシャルビジネスや企業組織の社会的責任（CSR/CSV）、グローバルなリスクガバナンスなど、社会デザインに関わる分野は広がっています。

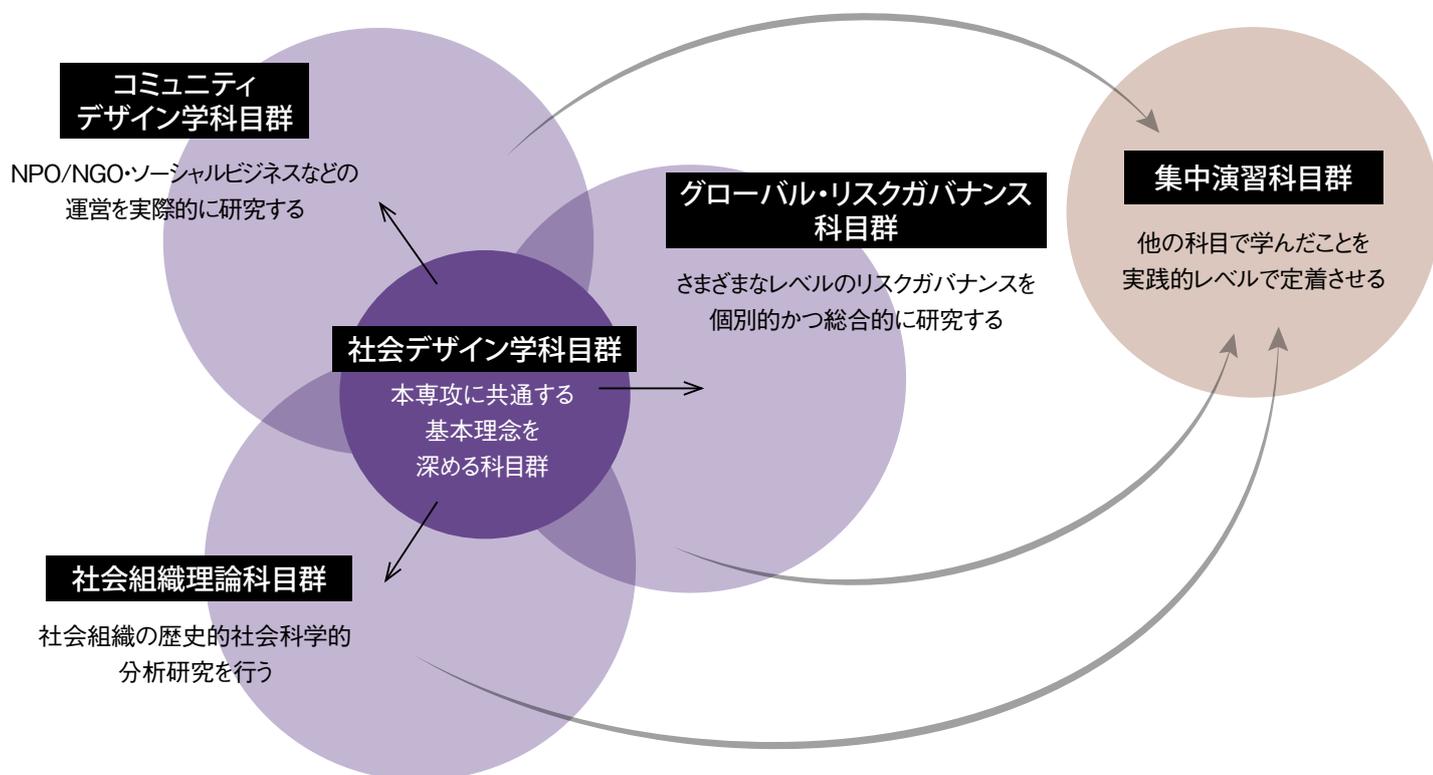
本研究科は引き続き、21世紀社会にイノベティブに関われる専門知識、マネジメント能力、グローバルな視野を有し、変化する社会状況に的確に対応できる総合的な判断力を備えた専門家＝ソーシャルデザイナーを育成していきます。



3研究領域・5科目群の有機的な関連を重視したカリキュラム編成



本専攻では、これら3つの研究領域を軸に、5つの科目群を設定しており、それぞれを有機的に関連させた学際的な授業を通じて、幅広い視野と総合的な判断力を養います。



<研究と指導の特色>

■ 実務的、実践的な研究に重きをおいた指導を行う

従来の学問領域を横断する柔軟な発想の総合的、多角的な理論研究を基盤としながらも、実務的・実践的研究に重きをおき、具体的な問題解決を図るための指導を行います。そのために、専任の教員以外にも、各分野で高い見識を持つ専門家を講師に招聘するなど学外との相互交流を促進し、外部との共同研究や共同活動の可能性を広げています。

なお、本研究科では、MBAコース(博士課程前期課程)に加えて、DBAプログラム(博士課程後期課程)を設け、実践にもとづく先駆的な研究者の養成も行なっています。

■ 複数の指導教員による徹底した研究指導

入学後直ちに2名の指導教員による徹底した研究指導を開始します。ゼミ形式のグ

ループ指導、個別面談によるマンツーマン指導、ゼミ合宿などを活用して論文や研究報告書の執筆を支援します。学生自身の自主的な勉強会、交流会も相互研鑽の機会として奨励しています。

■ 多様な学術研究を可能にする研究評価方式

これまでの学問領域の枠を超えた学術研究を目指す本専攻では、修士論文にかわる修了成果として、たとえば、職業上の問題関心に基づくケーススタディ、ボランティア活動に関わる調査報告書なども厳正審査の上、認定します。

■ 産学地域連携に基づく研究教育活動の推進

各分野・科目群では、関連学会やパートナー企業、NPO/NGO、自治体、地域との連携による実践的研究の機会も追求しています。また、下記を随時展開しています。

<公開講演会・講座>

研究科・研究所主催で、数多くの公開講演会・講座を開催しています。本研究科教員のほか、学外から多彩なスペシャリストを講師やパネリストとして招聘しており、一般の方も参加しやすいよう、土曜日や平日夕方からの開催が中心です。入場は無料です。開催予定については、研究科HPをご覧ください。

<実践的な人「財」育成プログラムを推進>

本研究科の特色を活かし、CSRや公共ホール・劇場運営などの人材育成プログラムを、パートナー企業、NPO/NGOなどとの協働と外部資金により、推進してきています。

このほか、別紙、研究所・学会の項もご参照ください。

コミュニティデザイン学



中村 陽一／教授

(地域)社会やそこでの生活のデザインを、足元からグローバルな範囲にまで広がる視野のなかで、人任せではなく自律的に描き出し、NPO／NGOやソーシャルビジネスなどを通じて実現していく力量を持つ人材の育成に取り組みたいと思います。大学と社会との多面的な交錯のなかから、そうした人々とともに社会デザインという方法によるソーシャルイノベーションを進めていきたいと考えています。

立教大学法学部教授、社会デザイン研究所所長。社会デザイン学会副会長、日本NPO学会発起人・前理事。多数のNPO、ソーシャルビジネスなどの運営やサポートなど、現場と往復しつつ実践的研究、基盤整備、政策提言に取り組む。研究指導分野はNPO／NGO、市民参加、ソーシャルビジネス、ネットワーク組織、CSRなど。社会デザイン学への招待／ソーシャルイノベーション論／社会デザインとしての市民活動／オーラルストーリーの課題と方法／集中演習



萩原 なつ子／教授

コミュニティデザインの鍵となるのは、多様な主体のゆるやかなネットワークと地域の課題を解決するための人と人、人と組織を結ぶ、ネットワーク。人をつなぐ、組織をつなぐ媒体となる人財、地域のきずなを育てる知力、知恵が求められています。常に現場性、当事者性を持ちながら、実践的な研究を目指しましょう。

立教大学社会学部教授。(公財)トヨタ財団アソシエイト・プログラム・オフィサー、宮城県環境生活部次長、武蔵工業大学環境情報学部助教授を経て現職。認定NPO法人日本NPOセンター代表理事。専門分野は環境社会学、非営利活動論、ジェンダー論。
21世紀社会デザインと市民知／集中演習



宮本 聖二／特任教授

社会課題を可視化するために映像コンテンツを制作し、それを関係者が視聴して問題の所在や原因を共有、課題解決に向けて一歩足を踏み出す。映像の持つ力を社会デザインにどう活かすのか皆さんと一緒に考え、実践して行きましょう。また、プラットフォームもデバイスも日々変化しているメディアのいまを見極めながら、これからのありようを、より良い社会の実現と結びつけて考えます。

NHK沖縄放送局、報道局おはよう日本プロデューサー、戦争証言プロジェクト・東日本大震災証言プロジェクト編集責任などを経てヤフー株式会社クオリティコントロール室プロデューサー。デジタルアーカイブ学会評議員。
ドキュメンタリーと社会デザイン／映像ジャーナリズム論／デジタル・アーカイブ論／メディア研究方法論／集中演習



三浦 建太郎／特任准教授

福祉とは、人びとが幸せに暮らせるようにすること。もしくは、生きづらさを抱える人びとを支えることと考えています。その主語であり主役は私たち自身。社会は、超高齢社会化、貧困格差拡大など、様々な課題を抱え、対応を迫られています。対応を政治家や行政に任せるのではなく、ジブンゴトとして捉え、どんな社会を望み作っていくのか。皆さんと議論を重ねていきたいと思っています。

社会福祉法人にんじんの会理事・特定非営利活動法人AIMS理事。高齢者介護領域でのICT活用の研究に加え、子どものグループケア・路上生活者支援・児童養護施設で生活する子どもの学習支援等、生きづらさを抱える人々を支えるための様々な実践活動に従事。
福祉課題に取り組む実践活動1・2／社会デザインと福祉課題1・2／集中演習



若林 朋子／特任准教授

文化とは、よりよく生きようとする人間の営みであり、知恵の結晶で、世の中のあらゆる領域に深く関係しています。だからこそ、一人ひとりがよりよく生きていくための社会のデザインに欠かせない要素だと考えます。関心のアンテナを常に広げ、文化の視点から課題先進国日本を見つめなおし、人を大事にするよりよい未来社会のデザインについて、皆さんと研究を深めていけたらと願っています。

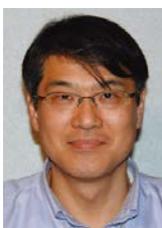
プロジェクト・コーディネーター。専門は文化政策、文化支援、企業の社会貢献。1999年～2013年公益社団法人企業メセナ協議会プログラム・オフィサー。現在は非営利セクターを中心に、事業コーディネート、企画立案、執筆、調査研究、自治体の文化政策やNPOの運営支援、事業評価、助成選考、コンサルティング等に取り組む。
非営利法人制度論／文化政策論／助成と評価／集中演習



長 有紀枝／教授

21世紀の国際社会では、「人間の安全保障」「保護する責任」など新しい概念が登場し、人間一人ひとりの生存、生活、尊厳に焦点があたる一方で、伝統的な国家の安全保障をめぐる課題も存在します。私たち自身が当事者であるとの意識をもち、21世紀の社会が直面する安全保障をめぐる多様な課題に、皆さんとともに取り組んでいきたいと思っています。

立教大学副総長、社会学部教授。認定NPO法人難民を助ける会理事長。長年NGOの活動を通じて、緊急人道支援、地雷対策、地雷禁止条約策定交渉などに携わる。専門はジェノサイド研究、移行期正義、人間の安全保障、国際人道法、など。相馬市復興会議顧問会議委員。
ダークツーリズム／人間の安全保障論／集中演習



長坂 俊成／教授

社会が不確実性を孕むリスクと付き合っていくためには、科学技術や制度、ビジネスによる課題解決力を高めるとともに、コミュニティやボランティア、プロボノなどの多様な主体から構成される重層的なセーフティーネットが求められる。授業を通じて、共に、感受性、俯瞰力、洞察力を高め、リスクガバナンスを再編するソーシャルデザインを実践してゆきたいと思っています。

立教大学社会学部教授。略歴：慶應義塾大学助教授、防災科学技術研究所主任研究員。専門：リスク学。(一社)協働プラットフォーム代表理事として、コミュニティとリスクガバナンスを支える情報プラットフォームを開発し被災地の情報支援やデジタルアーカイブ等のプロボノ活動に取り組む。
プラットフォームと社会デザイン、防災政策論／リスクガバナンス論／リスクコミュニケーション論／防災政策論／避難生活の社会デザイン／集中演習

グローバル・リスクガバナンス



大熊 玄／准教授

日本で唯一の「哲学の博物館」で十年間ほど学芸員をしていました。行政と民間、中央と地方、研究者と生活者、哲学と宗教という境界線を行き来しながら、現在のシステムの中で一本の弱き「考える葦」として生きてきました。個人は、組織・地域・自然という「場」においてどう生きればよいのか。個と場がともに生きる道を考えてきました。そのような「場」に開かれた個が生きる方法を、皆さんと一緒に考えていければ幸いです。

立教大学文学部准教授。専門は、哲学、宗教学、日本思想。金沢大学大学院博士後期課程満期退学。Pune 大学大学院国費留学。金沢大学非常勤講師(インド哲学・金沢学等)、石川県西田幾多郎記念哲学館専門員・学芸課長を経て、2015年より同館副館長。西田哲学会理事。自然学の方法／社会的人間存在論／場の人間学／宗教と社会デザイン／社会課題と対話の実践／集中演習



亀井 善太郎／特任教授

みんなにとってよいこと＝Publicや公と呼ばれるものを担うのは政府だけではありません。デモクラシーの本来の姿を踏まえ、また、政府機能の相対的縮小が必然となる現代では、一人ひとりがPublicを担う力をもっと磨いていかねばなりません。多様な価値観を受けとめ、社会課題を自分のこととし、本質を見極め、具体的な解決手段に至る。お互いにそんな一人になれるよう切磋琢磨していきましょう。

慶応義塾大学経済学部卒業。日本興業銀行、ボストン・コンサルティング・グループ、衆議院議員等を経て、現在、PHP総研主席研究員、みずほ総合研究所アドバイザー、アジア教育友好協会理事等を務め、シンクタンカーやNPOマネジメントとして民間からの政策立案、社会変革に取り組む。対話を重ねて構築するパブリック／民が担う政策提言のための基礎・実践／企業組織が担うパブリック／集中演習



河口 眞理子／特任教授

気候変動の脅威が日々の生活にも影響するようになる中、競争から共生へ、自己利益追求から社会課題解決へ、最高から最適へ、サステナビリティこそが人類社会を存続のカギです。その道筋を照らすSDGsは、企業、金融、消費者が、価値観と意識と行動を三位一体で変革させるという未曾有の現在進行形のチャレンジでもあります。ダイナミックな社会変革の流れと一緒に学んでいきましょう。

一橋大学大学院修士課程修了。大和証券グループ本社CSR室長、大和総研研究主幹を歴任。アナリスト協会検定会員、中央環境審議会臨時委員、JSIF共同代表理事、早稲田大学非常勤講師、著書「ソーシャルファイナンスの教科書」(生産性出版)など。ESG金融-1・2／CSR・CSV論-1・2／集中演習



中森 弘樹／助教

社会問題を研究していると、一般的には迷惑とされている行いが、問題の当事者にとってはある種の救いとなっていたり、逆に善いとされる行いが、当事者には負担だったりすることがしばしば観察されます。一筋縄ではいかないところが、社会の難しさでもあり、面白さでもあります。このような現代社会を捉え、未来を構想するために必要な多元的な視座を、皆さんと学んでいければと思います。

日本学術振興会特別研究員(PD)、京大非常勤講師等を経て、現職。社会学の視点から失踪の研究を行ってきた。日本社会病理学会理事。NPO法人日本行方不明者捜索・地域安全支援協会理事。専門分野は社会病理／社会問題論、親密性、社会調査、現代社会論。社会学言論／論文作成法Ⅱ／社会調査法Ⅱ・Ⅰ／親密性と現代社会／社会問題の分析理論／集中演習

稲葉 剛／客員教授

貧困と社会的排除 1

一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事。認定NPO法人ビッグイシュー基金共同代表。住まいの貧困に取り組むネットワーク世話人。『貧困の現場から社会を変える』(堀之内出版)、『生活保護から考える』(岩波新書)など、著書多数。

梅本 龍夫／客員教授

社会組織とフォローアップ

NTT、ペイン、サザビーリーグ等を経て独立(経営コンサルタント)。スターバックスコーヒー立上げ総責任者。専門は、物語マトリクス理論、経営戦略、組織人事、マーケティング、ブランディング、パーソナリティ論、ライフストーリー論、サードプレイス論。

指田 朝久／客員教授

気象変動とリスクマネジメント、災害と事業継続計画BCP

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社主幹研究員。東京大学工学部卒。危機管理、リスクマネジメント、BCPなどのコンサルティングに従事。京都大学博士(情報学)、気象予報士、情報処理技術者システム監査の資格をもつ。

鈴木 均／客員教授

CSR基礎論

(一財)日本民間公益活動連携機構 事務局次長、(株)国際社会経済研究所代表取締役社長、NEC CSR部門の責任者等を歴任。(一社)ソーシャルビジネスネットワーク理事、(特非)サステナビリティ日本フォーラム理事、(公財)日本盲導犬協会評議員など。

細川 淳／客員教授

エシカル・ビジネス論／コーオウンド・ビジネス

(一社)従業員所有事業協会代表理事。跡見学園女子大学マネジメント学部教授。(株)コアドライビング・フォース社長。21世紀社会デザイン研究科前・後期課程修了。社会デザイン学博士。企業のコーオウンド化指導、エシカル経営指導を実践。

御厨 貴／客員教授

オーラルヒストリーの課題と方法

東京大学名誉教授。東京大学先端科学技術センター客員教授、放送大学客員教授、サントリーホールディングス株式会社取締役、ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼戦略センター長。専門は近現代日本政治史、オーラル・ヒストリー。

吉田 敏浩／客員教授

聞き書きとコミュニケーション

ジャーナリスト。アジアプレス・インターナショナルメンバー。早稲田大学ジャーナリズム教育研究所客員研究員。『森の回廊』で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。著書に『赤紙と徴兵』など。

渡辺 元／客員教授

ソーシャル・ガバナンス論

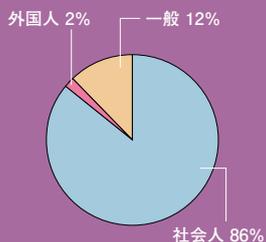
元21世紀社会デザイン研究科教授。(公財)助成財団センター理事事務局局長兼プログラム・ディレクター。(特活)市民社会創造ファンド副理事長運営委員長。(公財)横浜市男女共同参画推進協会評議員など。著書に『市民社会創造の10年』など。

■ 法人略記 (公財)…公益財団法人、(一財)…一般財団法人、(一社)…一般社団法人、(特非)…特別非営利活動法人・NPO法人、(福)…社会福祉法人 ※認定NPO法人はそのまま記した

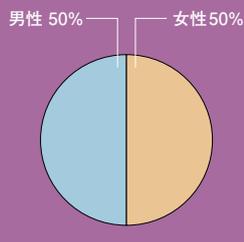
兼担教員／兼任講師	<p>相藤 巨／兼任講師 地方自治と社会政策</p> <p>社会デザイン学会幹事長。21世紀社会デザイン研究科博士前期課程修了後、同研究科博士後期課程修了。博士(社会デザイン学)。専門は地方自治、社会政策、ジェンダー。</p>	<p>今里 義和／兼任講師 メディアと政治・世論</p> <p>元東京新聞論説委員。ワシントン特派員、政治部や外報部の記者などを歴任。自民党、外務省などを主に担当した。公職では外務省ODA評価有識者会議委員を務めた。著書に「外務省「失敗」の本質」(講談社)など。</p>	<p>奥田 裕之／兼任講師 市民社会論</p> <p>前(特非)まちぼつと事務局長。未来バンク理事、ジャーナリズム支援市民基金運営幹事。市民ファンドやNPO/バンクの運営・設立、非営利事業への政策提案や支援などを行う。</p>
	<p>景平 義文／兼任講師 イスラム社会と国際協力</p> <p>認定NPO法人難民を助ける会プログラムコーディネーター。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。博士(人間科学)。紛争地域の教育を研究。</p>	<p>加勢 雅善／兼任講師 ソーシャルビジネス論</p> <p>(特非)ETIC、マネージャー、これまでに100団体以上のNPO・社会起業の立ち上げを担当。大手企業・外資系企業CSRと連携プログラムを多数実施。</p>	<p>加藤 雅則／兼任講師 社会組織開発論</p> <p>(株)アクション・デザイン代表。エグゼクティブ・コーチ/組織開発コンサルタント。慶応義塾大学経済学部卒業後、日本興業銀行、環境教育NPOを経て現職。カリフォルニア大学バークレー校経営学修士。主著「組織は変わるのか」</p>
	<p>川口 智子／兼任講師 社会を眼差すアートの世界</p> <p>演出家。近年の上演作に「4.48 PSYCHOSIS」、「タバタ」、「動物たちのバベル」など。他者の劇場/演劇を目指し、香港・韓国・イギリスなど国外アーティストとの共同制作、市民との作品づくり等も行う。</p>	<p>菊地 栄／兼任講師 論文作成法</p> <p>(一社)社会デザイン研究所特別研究員。聖隷クリストファー大学他非常勤講師。社会デザイン学会常任理事。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士課程後期課程修了。博士(社会デザイン学)。</p>	<p>佐野 敦子／兼任講師 「デジタル化」と社会デザイン</p> <p>国立女性教育会館専門職員(eラーニング担当)。博士(社会デザイン学)。eラーニング大手企業に勤務しながら本研究科に進学、学位取得後に現職。現在、AIやICTの拡大がジェンダー平等推進に及ぼす影響を研究中。</p>
	<p>高宮 知数／兼任講師 ソーシャル・マーケティング論</p> <p>立教大学社会デザイン研究所研究員。東日本国際大学地域振興戦略研究所客員教授。座・高円寺劇場創造アカデミー講師。(株)ファイブ・ミニッツ代表。総務省地方創生・地域の元氣創造プラットフォームアドバイザー。</p>	<p>田中 由美子／兼任講師 アジア・アフリカの社会デザイン</p> <p>城西国際大学招聘教授。国連職員、JICA国際協力専門員などを経て現職。アジア・アフリカの社会開発・ジェンダー分野の協力を実施。国際協力学博士(東京大学)。</p>	<p>寺中 誠／兼任講師 グローバル社会から考える人権</p> <p>国際人権NGOのアムネスティ・インターナショナル日本の元事務局長。東京経済大学現代法学部客員教授。国内人権機関と選択議定書の実現を求める活動に従事している。</p>
	<p>中野 民夫／兼任講師 場づくり/リアリゼーション実践論</p> <p>東京工業大学リーダーシップ教育院・リベラルアーツ研究教育院教授。ワークショップ企画プロデューサー。(株)博報堂、同志社大学を経て現職。主著「ワークショップ」[学び合う場の作り方]</p>	<p>中野 未知子／兼任講師 コミュニケーションデザインと組織運営</p> <p>多摩大学大学院データリブ経営フィールド客員教授。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士前期課程修了。東京都美術館と東京藝術大学によるアート・コミュニケーション事業「とびらプロジェクト」3期生。</p>	<p>仁平 典宏／兼任講師 「新しい公共」の社会学</p> <p>東京大学大学院教育学研究科准教授。博士(教育学)。日本NPO学会理事。専門社会調査士。著書は「『ボランティア』の誕生と終焉(贈与のパラドックス)の知識社会学」など。専門は社会学。</p>
	<p>広石 拓司／兼任講師 コミュニティマネジメント論</p> <p>(株)エンパブリック代表取締役。三和総合研究所入社後、(特非)ETICフェローを経て現職。専門は地域発の社会起業家育成、都市コミュニティの再構築。</p>	<p>星野 哲／兼任講師 看取り・申いの社会デザイン</p> <p>立教大学社会デザイン研究所研究員、ライター。元朝日新聞社記者。21世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程修了。</p>	<p>本多 創史／兼任講師 生命技術と21世紀社会</p> <p>福島県立医科大学教授。博士(学術)。主な関心は、19世紀末から20世紀後半までの自然科学の学問知が「社会」について何を、どのように、語ってきたのか、にある。</p>
	<p>水島 俊彦／兼任講師 社会的弱者の自己決定と意志決定支援</p> <p>法テラス埼玉法律事務所常勤弁護士。厚労省成年後見制度利用促進専門家会議委員。認知症の人、障害のある人への意思決定支援ガイドラインの整備や研修、支援ツールの開発のほか、司法ソーシャルワークを中心に活動。</p>	<p>村尾 るみこ／兼任講師 アフリカ地域研究</p> <p>立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科兼任講師。日本アフリカ学会評議員。アフリカ日本協議会理事。専門は地域研究(アフリカ)、人類学。研究分野は、アフリカ農民、難民・帰還民研究。</p>	<p>森田 系太郎／兼任講師 環境人文学</p> <p>環境(人)文学研究者 兼 会議通訳者・翻訳者(日⇄英)。立教大学(社会デザイン学[博士])、モントレー国際大学院(翻訳通訳[修士])、米国立滞などを経て現職。著書に「環境人文学Ⅰ/Ⅱ」(勉誠出版、2017)等。</p>
	<p>森屋 雅幸／兼任講師 文化財保護と社会デザイン</p> <p>法政大学大学院人間社会研究科博士後期課程修了。博士(学術)。地域のコミュニティと文化財保護の関わりについて研究をおこなう。著書に「地域文化財の保存・活用とコミュニティ—山梨県の擬洋風建築を中心に—」(2018、岩田書院)など。</p>	<p>山内 幸治／兼任講師 ソーシャルビジネス論</p> <p>(特非)ETIC理事・事業統括ディレクター。97年ETIC、事業化から参画。認定NPO法人カタリパ理事、東北オープンアカデミー実行委員なども務める。</p>	<p>渡部 正治／兼任講師 人を大切にする組織・経営倫理論</p> <p>(一社)経営倫理実践研究センターシニアフェロー、東京都中野区スポーツ推進委員。日米合併の損害保険会社で社長室長、法務・コンプライアンス部長、企画総務部長などに従事。専門は経営倫理、CSR、スポーツ倫理など。</p>

研究科入学者データ (2019年度入学者)

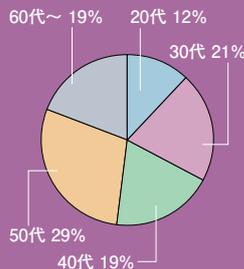
◆ 入試区分別



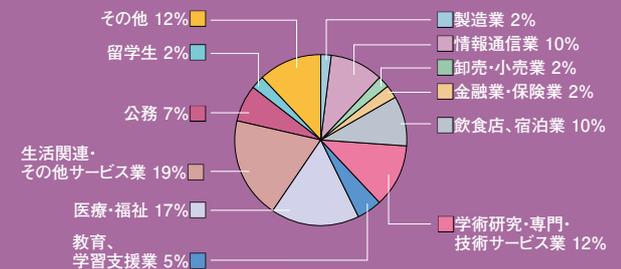
◆ 性別



◆ 年代別



◆ 経歴





社会デザインの分野における 高いレベルの専門家＝ソーシャルデザイナーを輩出

NPO/NGOやソーシャルビジネス、企業の社会的責任(CSR)、国際協力団体の運営、企業・自治体から地球レベルに至る危機管理に関する専門知識、スキル、マネジメント能力を修得し、かつグローバルな視野から、変化する社会状況に的確に対応できる総合的な判断力を備えた専門家＝ソーシャルデザイナーを輩出しています。
(詳細は本研究科HPを参照)

修了生のキャリア



雑誌連載に講演活動、
私の未来を拓いてくれた大学院

榎原 康貴 さん

学校法人 東洋大学
総務部広報課 課長

修了した2015年から『月刊 広報会議』で連載を持つことに。大学広報についての記事なのですが、書きながら日々の広報活動のヒントには、この大学院での学びから得たものが多くあることを実感しています。また、この連載を通じて各方面から講演のご依頼もいただくことも。そこから新たな出会いや研究の機会に繋がっています。この研究科はまさに私の未来を拓いてくれた学び舎です。



多様な世界を覗いてみる

村富 清香 さん

株式会社 太知ホールディングス
医療事業部 ドバイ駐在

一番の面白味は幅広い分野の教授陣、異なる背景や経験を持ち、年齢層も幅広い同期や先輩方で、全く知らない世界の話や異なる立場からの見方について知る機会があることです。修了後はカイロへ渡り、現在はドバイを拠点に中東で働いています。日本から見ると中東は一括りにされ易いですが、歴史も文化も異なる複数の国々です。常識がひっくり返されても視点を変えて日々挑戦しています。



21世紀は研究と実践の苗床。
おたのしみはこれから!

細川 淳 さん

跡見学園女子大学マネジメント学部
マネジメント研究科 教授
立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 客員教授
(一社)従業員所有事業協会 代表理事
株式会社コア・ドライビング・フォース 代表取締役社長

高度消費型・競争型の事業を営んでいましたが「世間のお役に立てない」と感じ入学。在学中に同事業を辞めました。エシカル・ビジネス論と従業員所有事業論を研究、修士・博士学位を頂戴しました。母校21世紀でエシカル・ビジネス論を担当、跡見で経営学を「エシカルてんこ盛り」で教えています。博論研究を実践すべく協会設立、コーオウンド・ビジネスの普及をライフワークにします!



色々な方々との交流は
人生の至宝になる

薛 玉潔 さん

株式会社ニトリ

中国での大学を卒業後は、社会福祉と企業のCSR研究を志し、当研究科に入学しました。ここには各々に独特な視点と志を持った社会人の方が多くいらっしゃいます。彼ら彼女らと共に過ごした日々は、研究の上でも、その後のキャリアを考える上でも、私にとって大変貴重な経験でした。現在の私は、留学生でも将来のキャリアプランを実現し得る環境にあり、CSRに携わるべく、勉強中です。



在学中に起業し、
ファシリテーターに。

古瀬 正也 さん

古瀬ワークショップデザイン事務所 代表
NPO法人はばとままになるまに 理事

大学卒業後すぐに本研究科に入学。約9割が社会人の中、多様な分野と年齢の方々に出逢えたことは思考を深める上でも人生においても多くのことを学びました。対話の手法「ワールド・カフェ」を実践・研究していく中で、お仕事として頼まれたことを契機に修士2年で起業。現在は、フリーランスのファシリテーターとして全国各地でワークショップや研修などの対話の場づくりを行っています。



自身の経験を、発展的に見直す
きっかけとなった、学びの日々

藤井 聡子 さん

横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団)
広報担当

広告代理店、出版社を経て、NPO在職時に大学院を志しました。それまでは消費財の宣伝・販促活動に就いていましたが、生活者意識が「モノ消費」から変わりつつある中で、公共や社会のためにコミュニケーションが果たせる可能性について考えていた時期、CSR広告について研究しました。現職では、先行きの見えないこの時代に、美術の持つ多様性が人々に新たな視座を与えられるよう、大学院での学びを実践しつつ、模索しています。

◆修了時に取得できる学位

比較組織ネットワーク学専攻 博士課程前期課程 修士(社会デザイン学)
Master of Business Administration in Social Design Studies

比較組織ネットワーク学専攻 博士課程後期課程 博士(社会デザイン学)
Doctor of Business Administration in Social Design Studies

受け継いできた社会を守る「愛」。
まだ誰も知らない世界を導く「力」。
次につながる100年をつくる「知」。

ここにそれがある!!



イベントのご案内

進学相談会(年4回 5月、7月、9月、12月) 教員との個別相談会を予定しています。
日経ビジネススクールとの共同講座 ソーシャルデザイン集中講座2020(2020年7月~9月)
公開講演会(年数回)

※ 予定は変更される場合があります。
開催日時、イベントの内容など、詳しくは研究科のホームページをご覧ください。



研究科ホームページ
<https://sds.rikkyo.ac.jp/>

入試要項概略

※ 出願資格審査、受験資格審査、出願については、必ず入試要項を確認してください。 ※ 入試要項は立教大学のHPにあります。

◆博士課程前期課程

入学定員	50名						
入学試験実施時期	秋季(10月)と春季(2月)						
対象	大学院入学資格を有する者						
試験区分	<table><tr><td>一般</td><td>【受験資格】出願資格を有する者(出願資格の内容は入試要項をHPで確認)。 【選考方法】書類審査、筆記試験、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。</td></tr><tr><td>社会人</td><td>【受験資格】出願資格を有し、かつ次の①②のいずれかを満たす者(出願資格の内容はHPで入試要項を確認)。 ①教育・福祉・宗教・国際協力・ボランティア・芸術文化・環境保全・まちづくり、その他何らかの社会的実践活動を入学時まで1年以上経験しており、入学時に満23歳以上の者。 ②学校・官公庁・団体・企業などで、入学時まで1年以上の就業経験があり、入学時に満23歳以上の者。 【選考方法】書類審査、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。</td></tr><tr><td>外国人</td><td>【受験資格】出願資格を有し、かつ日本語を母語としない者(出願資格の内容は入試要項をHPで確認)。 【選考方法】書類審査、筆記試験、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。</td></tr></table>	一般	【受験資格】出願資格を有する者(出願資格の内容は入試要項をHPで確認)。 【選考方法】書類審査、筆記試験、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。	社会人	【受験資格】出願資格を有し、かつ次の①②のいずれかを満たす者(出願資格の内容はHPで入試要項を確認)。 ①教育・福祉・宗教・国際協力・ボランティア・芸術文化・環境保全・まちづくり、その他何らかの社会的実践活動を入学時まで1年以上経験しており、入学時に満23歳以上の者。 ②学校・官公庁・団体・企業などで、入学時まで1年以上の就業経験があり、入学時に満23歳以上の者。 【選考方法】書類審査、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。	外国人	【受験資格】出願資格を有し、かつ日本語を母語としない者(出願資格の内容は入試要項をHPで確認)。 【選考方法】書類審査、筆記試験、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。
一般	【受験資格】出願資格を有する者(出願資格の内容は入試要項をHPで確認)。 【選考方法】書類審査、筆記試験、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。						
社会人	【受験資格】出願資格を有し、かつ次の①②のいずれかを満たす者(出願資格の内容はHPで入試要項を確認)。 ①教育・福祉・宗教・国際協力・ボランティア・芸術文化・環境保全・まちづくり、その他何らかの社会的実践活動を入学時まで1年以上経験しており、入学時に満23歳以上の者。 ②学校・官公庁・団体・企業などで、入学時まで1年以上の就業経験があり、入学時に満23歳以上の者。 【選考方法】書類審査、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。						
外国人	【受験資格】出願資格を有し、かつ日本語を母語としない者(出願資格の内容は入試要項をHPで確認)。 【選考方法】書類審査、筆記試験、口頭試問の成績を総合的に評価して行う。						

◆博士課程後期課程

入学定員	5名
入学試験実施時期	春季(2月)

◆科目等履修生制度

詳細は本研究科HPの「科目等履修生案内」をご覧ください。
※2021年度の募集要項は2020年3月上旬に掲載の予定です。

■ 研究科に関するお問い合わせ

立教大学独立研究科事務室
TEL : 03-3985-3321 開室時間:平日 10:30~18:30 土曜日 10:00~13:30

■ 研究科資料のお申込み

立教大学入学センター
TEL : 03-3985-2660 開室時間:平日 9:00~17:00 土曜日 9:00~12:30